

CBI 学会 沿革

- 1979-80 年 財団法人東京都臨床医学総合研究所医療工学研究室に於いて、神沼二眞、鈴木勇らによって化学生物学分野の統合システムの研究が開始され、栗原章浩（株）フジミックおよび CIS プロジェクトの協力の下に CIS（Chemical Information System）の部分的な移植実験に成功する。
- 1981 年 3 月 上記の活動を基に、「計算機と化学・生物学の会」の設立準備会を開催する。
4 月 「計算機と化学・生物学の会設立準備事務局」を開設し、その下にフォーラムとワークショップを置く。事務局を東京都臨床研医療工学研究室に置き。代表として神沼二眞（東京都臨床研）を選出する。
10 月 第 1 回研究講演会を開催
12 月 第 1 回研究連絡会議を持つ。
第 1 期 2 ヶ年計画の実施を決定する。
- 1982 年 化学生物学分野の研究支援システムとその利用に関する研究講演会を積極的に開催する。
- 1983 年 7 月 第 2 期 2 ヶ年計画の実施を決定する。
- 1983-84 年 東京都臨床研において CHEMLAB、TRIBBLE を始めとする分子のモデリングとグラフィックシステムの移植・評価実験を行う。
- 1985 年 7 月 「計算機と化学・生物学の会設立準備事務局」を「計算機と化学・生物学の会」と名称変更し、併せて運営組織を改組する。神沼二眞（東京都臨床研）が、代表となる。
- 1986 年 4 月 「計算機と化学・生物学の会」事務局をアドイン研究所内（東京都渋谷区神南）に移す。
- 1987 年 4 月 「計算機と化学・生物学の会」事務局を日本科学技術研修所内（東京都渋谷区千駄ヶ谷）に移す。
- 1988 年 3 月 大澤映二（北海道大学）が、代表となる。
- 1989 年 3 月 大澤映二（北海道大学、現豊橋技術科学大学）が、代表に再任される。
- 1990 年 6 月 「計算機と化学・生物学の会」事務局を（社）日本工業技術振興協会（東京都港区赤坂）に移す。
- 1991 年 8 月 「計算機と化学・生物学の会」事務局を愛知産業ビル内（東京都品川区北品川）国民工業振興会に移す。
- 1992 年 3 月 細矢治夫（お茶の水女子大学）が、代表となる。
- 1994 年 4 月 独自のサーバ機を導入し、インターネットへの接続環境を構築するとともにネットワーク団体として登録する。
- 1997 年 「計算機と化学・生物学の会」事務局をイイダビル（東京都世田谷区用賀）に移す。
- 1999 年 10 月 平山令明（東海大学）が、代表となる。
- 2000 年 4 月 「計算機と化学・生物学の会」を「情報計算化学生物学会」と名称変更する。
- 2001 年 4 月 多田幸雄（大鵬薬品）が代表となる。
- 2003 年 4 月 代表に多田幸雄（大鵬薬品）が再任される。
- 2005 年 4 月 代表に多田幸雄（大鵬薬品）が再任される。
- 2007 年 4 月 河合隆利（エーザイ）が代表となる。
- 2009 年 4 月 代表に河合隆利（エーザイ）が再任される。
- 2011 年 4 月 田中博（東京医科歯科大学）が代表となる。
6 月 事務局を横浜市に移す。所轄庁の変更（所在地変更）に伴い東京都より特定非営利活動法人の認証が下りた。
- 2012 年 4 月 横浜市より、特定非営利活動法人設立の認証が下り、小長谷明彦（東京工業大学）が理事長となる。
- 2013 年 4 月 代表に田中博（東京医科歯科大学）が再任される。
- 2015 年 4 月 代表に田中博（東北メディカルメガバンク機構）が再任される。
- 2016 年 6 月 事務局を東京都新宿区に移す。
- 2017 年 4 月 片倉晋一（第一三共 RD ノバーレ）が代表となる。